

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位 (時間)	科目責任者
基礎看護学方法論Ⅰ-4	1年次 後期	必修	講義	1単位(30時間)	鹿島ゆかり ※
授 業 概 要					
対象がよりよく生きることを支えるために、看護独自の機能である日常生活を整える技術の基本を科学的に学習する。ここでは、援助の原理原則を学び、様々な年齢や健康状態の人に日常生活援助を実施する基礎を学ぶ。					
到 達 目 標					
1. 日常生活援助技術の科学的根拠や原理原則を述べる。 2. 対象に応じた援助の必要性和方法を述べる。 3. 安全・安楽・自立・個別性に配慮して援助する。 4. 実施した援助を評価し、自己の課題を述べる。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-7	1. 適切に飲食する 食生活と栄養摂取の援助技術 1) 人間にとっての食事と栄養摂取の意義 2) 食事動作を形態機能学の視点で考える 3) 食事・栄養摂取のニードが充足された状態と影響する要因 4) 食事・栄養摂取のニードの充足状況の判断 5) 経口摂取できる患者の食事介助 6) 食事介助の実際 7) 経管栄養法を受ける患者の援助				鹿島ゆかり ※
8-15	2. あらゆる排泄経路から排泄する 1) 排泄の意義 2) 排泄動作を形態機能学の視点で考える 3) 排泄のニードが充足された状態と影響する要因 4) 排泄のニードの充足状況の判断 5) 排泄の援助 自然な排泄を促す援助 トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 床上での排泄の援助 6) 床上排泄の実際 7) 排泄障害のある患者の援助 8) 膀胱留置カテーテルの援助				
学 習 方 法					
解剖生理学をはじめ看護の概念など、既習の知識を再確認しながら演習する。自分自身が体験することで基本となる知識を確認し、原理原則に沿った基本技術を習得していくので、自己訓練が必要になる。個人又はグループで演習をしながら、手順だけでなく必要な根拠、アセスメント力を高めるように努力が重要である。					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 科目修了試験、レポート					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
〔教科書〕 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第3版 深井喜代子 編 メジカルフレンド社 写真でわかる 実習で使える看護技術 アドバンス 編著 吉田みつ子 本庄恵子 インターメディカ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 監修 川島みどり 医学書院					
〔参考書〕 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 高木永子 監修 学研 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版					